

特別講演会（東京会場）開催

5月15日（土）、東京両国の江戸東京博物館ホールで、特別講演会を開催しました。

これは平城京遷都1300年祭を機会に、関東にも奈良文化財研究所のことを知ってもらいたいという趣旨で実施したものです。毎年春秋に開催する平城宮跡資料館講堂での公開講演会は106回を数えるまでになっていますが、奈良県外に出るのはこれが初めての試みでした。

「今、よみがえる平城京」をテーマに、特設のホームページやちらし・ポスターなどで関東方面に呼びかけたところ、定員400名に対し申し込みは700名を超え、手応えは充分。当日は開場間もなく客席が埋まり始め、開演時には満席となりました。

まず、田辺征夫所長が「平城宮跡のむかしと今」と題した基調ミニ講演で平城宮跡の歴史と現状を紹介し、島田敏男建造物研究室長が「大極殿復原」、馬場基主任研究員が「木簡が語る平城京の時代」の講演をおこないました。最後は読売新聞大阪本社編集委員の柳林修氏が講演者に質問する形式のディスカッションでした。遷都が繰り返された理由や平城宮跡の復原の是非など、鋭い切り口で質問するコーディネーターと、応じる講演者とのやりとりに、時には拍手が起こるほど会場は盛り上がり、3時間にわたる講演会は井上和人副所長の閉会挨拶に至るまで熱気に満ちたものとなりました。

奈良への関心の高さを直に感じることができた今回の経験を踏まえて、2回目の東京特別講演会を、9月25日に有楽町朝日ホールで開催します。

（研究支援推進部 永井 あつ子）



ディスカッション「講演者に聞く」